



備に取り組み、用事がなくてもセンターに来て過ごすことができるスペースを作り出した。自由に閲覧できる本や雑誌を準備してあるので1人で楽しむこともできるが、友人同士でくつろぎながらおしゃべりをすることもできる。

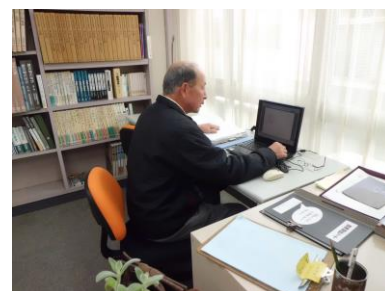
また、全館無線LANを完備というコミュニティセンターとしてはあまり例のない環境を生かして、自由に閲覧できるパソコンコーナーと、持ち込みパソコンを使うスペースを確保した。

次に、すべての人がセンターを自分の居場所として感じられるように、身近な「相談スタッフ」の養成を準備した。センターでは、地域の人々が学習課題を設定して自主的主体的に学ぶ講座を開設しており、学びの成果を還元する場として、学校支援ボランティア等の活動を続けている。その多様で豊富な人材を生かして、各年齢やニーズに対応したスタッフを確保し、定期的に活動できるよう、次年度に向けて計画を立てた。

## ① 本や情報を活用した居場所作り

### ア 図書室及びロビーの環境整備

使いやすく明るい雰囲気のある机と椅子を準備して、くつろげる空間作りをした。誰もが気軽に入ってゆっくりすることができるスペースは、これまで地域の中にあまりなかった。コミュニティセンターの生涯学習活動への参加や各種集会への参加でなくても、センターに来て、過ごしてもらおう「居場所」となっている。



図書室・ロビーはいつも利用者がいっぱい

### イ 情報を活用した学習と居場所作り

まず、誰もが利用できるノートパソコンを2台購入し、図書室に設置した。これにより、インターネットを活用した情報収集や情報発信がいつでも可能となった。また、全館に無線LANが配備してあるので、来館者のパソコンもつなぐことができるように、貸し出し用のLANカードを準備した。来館者は、無線機能のあるパソコンなら、全室でインターネット接続が可能であるし、無いパソコンの場合は、LANカードの貸し出しをすることで接続可能となる。

- ・ 情報教育打合せと学習プログラムの立案
- ・ 親子向け情報活用講座「おやこで学ぼうインターネット！」
- ・ 保護者向け講座「子どもとパソコン・SNSってなあに？」  
「安全にインターネットを使うには？」
- ・ コミュニティセンター主催講座参加者向け講座「SNSってなあに？」  
「プレゼンテーション研修～講座の総合学習発表会で発表しよう」
- ・ 一般向け講座「みんなでつながる＊あらかきパソコン教室」

初級はスイッチをいれるところからスタートして、中級でインターネットとメール、上級はツイッターとフェイスブックの活用までを学んだ。  
1月2月3月は初級・中級・上級各1～2回開催（延べ70人参加）



パソコン教室の様子



親子で学ぼう！インターネット

### ウ 本を活用した居場所づくり

- 4月～3月 おすすめ本のコーナー、雑誌コーナーの充実と広報
- 11月 講演会開催「こどもと本を楽しもう！」
- 2月 本にかかわるお料理会の実施（幼稚園年中・年長対象）  
～絵本『からすのパンやさん』のパンをつくろう～

## ② その他の居場所づくり

さまざまな仕掛けにより、これまでセンターの学習活動にあまり参加していない人をセンター事業に取り込むことを目指した。

### ア 荒木ギャラリー事業

荒木の地域全体に呼びかけて、荒木コミュニティセンターを会場として、地域のみなさんの作品やコレクションの展示をはじめた。

地域には、写真や手芸・工芸・絵画など、生涯を通じた制作活動を、自分自身の楽しみや生きがいとして続けている方が多数おられる。そんなみなさんを地域に紹介して作品を発表する機会を設けたことで、これまでこられなかった方の来館につながった。

また、小学校から積極的な展示の申し出があり、地域の小学生の作品を学校内だけでなく広く地域の方に見ていただく場をつくることができた。

### イ エコ・フリーマーケット事業

エコと人の交流を目的として、10月と2月にフリーマーケットを開催した。フリーマーケットや不用品交換会は、こどもからおとなまで、みんなが楽しんで参加できる。エコをテーマとした、楽しい交流の催しとして定着しそうである。



荒木ギャラリー事業



エコ・フリーマーケット事業

### ③ 情報を活用した災害に強い地域づくり

昨年3月に起きた東日本大震災は、島根に住む私たちにも多大な影響をもたらした。個人としての生き方はもちろん、地域としての安心安全、コミュニティセンターとしての非常時の対応など、多方面の課題が考えられる。

そのなかで、荒木コミュニティセンターは、町内会長会や各種団体に構成する災害対策本部と連携をとり、これからの防災対策について検討や協議をおこなっている。

特に、11月の大社地域一斉避難訓練における防災メール訓練を、無線LAN環境の中で実施することができた。また、災害対策本部委員に対して、パソコンや携帯電話によるメールやインターネット利用などの情報活動の有無についてアンケートを実施。次年度には、ツイッター等を活用した安否確認、情報収集の研修を予定している。



11月の大社地域一斉避難訓練の様子

### 3 事業の成果と課題

この事業を通して、わたしたちは2つのことを達成したいと考えてきた。すなわち、ネットを活用した情報や伝達によるグローバルな「つながり」の構築。もうひとつは人と人が実際に会って話をし、交流を重ねる「居場所」での「つながり」の構築。

現代においては、情報の格差が社会的、経済的なさまざまな格差を生む要因となることがある。特に、高齢者が多い地方の市町村において、誰もが格差を感じることなく生活していくためのお手伝いは、わたしたちコミュニティセンターの役割である。また、一方でコミュニティセンターは、何よりも大切な人と人とのつながりの「場」となることも重要である。

その両方を、この『実証！「地域力」醸成プログラム』の活用によって実現していかななくてはならない。

### 4 今後の方向性

私たちの暮らす社会は、常に変化し進化している。センターは常にその変化に対応し、そこで暮らす人々のために事業を組み立てていく必要がある。

一年間の活動では、なかなかすべての人に「情報化」「人と人とのつながり」の双方を実感してもらうことができなかつたので、次年度はさらにうまくバランスをとりながら、すべての住民を巻き込んで『実証！「地域力」醸成プログラム』事業を組み立てていきたい。